

## 会議録【要点筆記】

会議名称	第2回米沢市環境審議会
開催日時	令和6年9月30日(月) 午前10時00分～午前11時55分
開催場所	米沢市役所 3階 301・302会議室
出席者	<p>会長 吉田 司 国立大学法人山形大学工学部 教授</p> <p>副会長 白壁 洋子 森の仲間たち代表／山形県環境アドバイザー</p> <p>委員 中川 恵 山形県公立大学法人山形県立米沢女子短期大学准教授</p> <p>〃 高野 浩宣 米沢商工会議所 総務企画部マネージャー</p> <p>〃 小嶋 淳子 米沢商工会議所女性会 会長</p> <p>〃 佐藤 郁子 生活クラブやまがた生活協同組合 理事長</p> <p>〃 齊藤 麗子 米沢市衛生組合連合会 副会長</p> <p>〃 塩越 憲夫 環境省環境カウンセラー</p> <p>〃 福島 正道 環境省環境カウンセラー</p> <p>〃 佐藤 亜紀 公募委員</p> <p>〃 吉原 ゆみ子 公募委員</p>
欠席者	<p>委員 我妻 弘一 東南置賜建設業協会 副会長</p> <p>〃 深瀬 順子 米沢市消費生活研究会 副会長</p>
事務局出席者	佐藤市民環境部長 富取課長、相田課長補佐、伊藤環境主査、佐藤主任、山口主事(環境担当)
会議次第	<p>1 開会</p> <p>報告(脱炭素先行地域選定結果、(仮称)栗子山風力発電事業について)</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 再エネ促進区域の設定等に向けたゾーニングについて</p> <p>① 審議事項及び配布資料の説明</p> <p>② 審議</p> <p>(2) 米沢市地球温暖化対策実行計画(中間見直し)【事務事業編】について</p> <p>① 審議事項及び配布資料の説明</p> <p>② 審議</p> <p>(3) 脱炭素先行地域づくり事業について(報告)</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p>※(1) 再エネ促進区域の設定等に向けたゾーニングについて、環境省及び業務委託企業の国際航業株式会社によるオンライン傍聴あり。</p>

会議資料	次第 第2回環境審議会資料 米沢市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）見直し素案
会議内容	
<p>【1 開会】</p> <p>市民環境部長より、JR 東日本エネルギー開発株式会社による(仮称)栗子山風力発電事業の撤退についての経緯説明及び第5回脱炭素先行事業選定結果(米沢市非選定)についての報告を行った。</p> <p>【2 会長挨拶】省略</p> <p>【3 議事】</p> <p>(1) 再エネ促進区域の設定等に向けたゾーニングについて</p> <p>事務局 (資料に基づき説明)</p> <p>会長 委員より、質問や意見があれば伺いたい。</p> <p>委員 ① 斜平山の調査もあり、東側の調査について7種類ほど出ているため加えてほしい。</p> <p>② 資料P15:山形県第2次レッドリストは3種類あり、鳥類、昆虫類の他、哺乳類・水辺の生物のリストがある。そちらも加えてほしい。</p> <p>③ 保全エリアについて、説明では「優先することが考えられる」では弱いと感じる。設備の設置はできないという形をしっかりと入れるようにしていただきたい。促進エリアについて、そこでも環境影響は考えられるため、保全についても考えていく旨入れていただきたい。</p> <p>事務局 ①について事前に資料もいただいているため、追加対応する。</p> <p>委員 風力発電の低周波の影響は国内でもトラブルが見られる。ゾーニングの中で何らかのチェックが必要に感じる。</p> <p>会長 あえて意見を申し上げるが、内容が環境保全に舵が切れてしまっていると感じる。一方でエネルギーの供給が逼迫した状況にあるのは議論の余地がない中、単に反対をするということで、画が倒れてしまったということは、非常に重大な問題であると感じている。特に再エネの施設に関しては、非常にそういう観点での議論ばかりになってしまう。</p> <p>資料を見ていただきたい。(会長持参のPCの資料により会長説明)</p> <p>週末知り合いの研究者と話をして驚いたことがあり、今朝調べて資料を作ってきた。バードストライクでの鳥の死亡原因を見ると、猫による死亡が非常に多い。人造物に対する衝突は建物、車、電線が多い。</p> <p>こういうことを踏まえ、風力発電に対し、例えば小さい電気フラッシュをつけるとか、色をつけるとかによって衝突の確率を減らすということはないかといった技術的な開発要素や、実際の生態に対するリサーチが必要。</p>	

気候変動が進むと様々な種が絶滅するが、見えないところへは意識が働きにくい。持続可能性を考えた時に、クリーンエネルギーの確保は何にも増して重要。環境保全をする必要がないというわけではなく、バイアスがそちらにかかり過ぎではないかと強く感じる。これからどう取り組むべきか、必要な対応をしなければならない。

庄内町で講演を行ったが、全国的に珍しく、水田の真ん中など平地に風力発電が建っており、活発に取り組まれている印象を受けた。先行的に取り組む地域の方々から学ぶといったことも含めて、どういうふうな対策がとれるのかを考えたい。心配だからやめときましょう、では済まされないということは、強く意識しておく必要があると思う。

委員 現状で、私たちができることを行った上でエネルギーの供給が必要なのかという点がここからあまり感じられない。

また各家庭において、どれくらい灯油に依存しているかとか、家庭からどのくらいCO2排出しているのかなど、市民の自覚があるのかも見えない。

今の住宅が高気密の住宅を作り電力で暖房を賄おうとしていて、その電力を賄うために、ゾーニング調査を通して再エネ電力を供給するという流れになってるんだと思うが、米沢で生活していると、灯油を買う家庭が多く、また山形県は独自に緑環境税とかを徴収しているぐらいであり、山林の保全というものをしてるはず。果たして、木質バイオマスエネルギーを使用する家庭がどのくらいあるのか。

資料を見るとどうしても頭が新しく電力供給しなきゃいけないとなってしまうが、生活している私達とものすごい乖離があるような気がする。

風力発電の設備もスペインあたりではもう、プロペラは立てるのも大変だし、維持メンテナンスも大変で、耐用年数も短いというのをクリアするための技術が開発されたという記事を見た。風向きにも左右されず耐用年数が長いという利点があり、ヨーロッパで注目されている。

近視眼的にプロペラの風力を立てなければならないという話が進んでるような気がする。

26年後と言うと、今設置する設備は大分消耗してるはず。また今回の台風10号の損害で、洋上発電設備が大分破損したっていうこともSNS上で上がってるようである。ゾーニングとかポイント絞って集中で審議することも大事だとは思いますが、もうちょっと広い視点で意見交換をし、エネルギーの幅を広げて考えてみたらどうだろうか。

会長 忍耐強く聞ける方がほとんどいないというのが実態で、そこを本当に求めるのであれば、勉強会をもっと開催すべきだと思う。

エネルギー需要に関しては、1人当たりの需要は恐らくまだ伸び続ける。

最近出てきたスマートフォンは従来の 10 倍電力を消費する。そのために巨大なデータセンターが必要となる。また、リモート診療だとか、高精細の画像で医者が近くにいなくても画像解析で診断ができるこういったことに AI を使うことあるだろうが、全く問題なく正しいことだと思う。

だからこそ、エネルギーは別に増やさなくていいというのは、自分の生活を無視しているようなもの。

山形県は一人当たり自動車保有台数が全国 3 位という資料があり、そこで EV という話になるが、EV は鉱物依存が高い。特にコバルトは極貧国のコンゴから来ており、政情不安により搾取されうる。

そういった議論を踏まえ、綺麗な絵だけ見せておいて、これをやればいいという話で議論が進んでしまうことが、国のレベルでもよくあること。

地に足つけて学者の話に耳を傾けてもらえるなら、正しい情報を知る機会はいくらでもあるはずだが、現状は自分として捉えない方が圧倒的に多い。

むしろそれよりも身近にあるわかりやすいことに対しては反応する。

子ども向けに言ってることだが環境問題は最後に出てくる。その背景にあるのは、持続性を無視した社会の発展産業の発展とその背景にある貧困、そしておおもとなる差別問題。ここに意識をなかなか向けられない。

美しい部分だけ見て、それをやっていますというふうに言うと、もちろん自分の心は満たされるが、リアリティは非常に厳しい。やり遂げなかったら、未来の世代にとって我々が当たり前だと思っていた世界は残されないということになる。

私は大学にいる教育者として、学びの機会を少しでも置きたい、米沢市に環境・エネルギーミュージアムを作れないかと思っている。そういうことが取り組めて、山形大学がコミットできれば、少しは役に立てるのではないかと思っている。

## (2) 米沢市地球温暖化対策実行計画（中間見直し）【事務事業編】について

事務局 （資料に基づき説明）

委員 照度の適正化については、照度計との連動ということか。

（事務局：人感センサーは庁舎内のトイレ等に設置のものを想定）

ということであれば、それにプラスして照度計との連動を図ると効果的だと思う。

委員 計画について広報やホームページでの掲載予定がないのであれば、色々な場面で出して知ってもらおうよう検討いただきたい。

会長 厳しい数値目標だと感じている。次の 10 年で減らせる量は厳しくなると考えられる。2030 年までに 50% にしろというのは、かなり厳しい要求水準。

決して日本はさぼっているというものでなく努力はしている。先日、共同

研究を行うオクラホマ大学に行ってきた。オクラホマは石油産出の州であり、大学はセンサーライト 1 つなく 24 時間明るい。エアコンは全部 AC モーターであるなど、全く省エネの意思がない。日本はやれることを一生懸命努力した上でこれだけ苦しんでるという状況。

ここから先に進めていくのは一層難しくなるが、全体の傾向としては、再エネは最大限導入を進めつつも、原発と CCS 進めるというのが経済産業省の考え方だと思う。CCS は、石炭火力、天然ガスはやめられないため、出てくる CO<sub>2</sub> を地中に埋めるということ。日本に限らずこれを言ってる国は多いが、スポンサーは大体石油会社。化石燃料を売り続けるための、免罪符として利用されてるというのが実態。

3R についても話があったが、サーキュラーで回したらゴミが出てこないからいい、というふうに見えるがこれはあくまで物質の話だけであり、回そうと思ったらエネルギーの投入が必ず必要になる。エネルギーを投入すれば必ず温室効果ガスが出てきて気候変動が進む。こういう仕組みはコスト高となり且つエネルギー的にも決して収支が合わないというのがほとんど。

米沢市として数字の根拠を出さなければならないというところもあると思うが、おそらく先進国も含め、見直しをせざるをえない状況に追い込まれる可能性はある。

電気自動車に前向きだったドイツが電動化をやめ合成燃料を認める動きを見せるなどある。今までの自動車を使えるもの。1 リットル 1000 円は超えるためまだ実用にはほど遠いという話にはなるが、技術的な理由づけっつのは実は裏にあり、部分だけ見せてこれいいでしょうというふうにする話が非常に多いので、注意して見ていく必要がある。

米沢市においての次の議題となると思うが、叶うことなら、独自性が高く米沢の地域特性を最大限生かした提案を、挑戦状を国に対してできればと思う。

### (3) 脱炭素先行地域づくり事業について（報告）

事務局 （事務局より第 5 回先行地域事業の結果について報告）

委員 脱炭素先行地域は相当難しいチャレンジだと思う。再トライするかどうかは別として、米沢としてあっと驚くような、市民も喜ぶようなものを構築していくことが必要かなと思う。

会長 今後は、私自身ももう少し早い段階からコミットできればと思う。

オクラホマ大学に行った際、メタンが問題になっているという話があった。世界的に上昇傾向にあり、原因があまりわかっていない中、牛舎のそばでは高い数値が出ているというものであった。国際連携のつながりもあるので、相談しようと思っていたところだった。

抜本的に牛を育てる過程の中でバイオ系の先生に入ってもらおうとか、餌についての技術的なものを取り組むなどができれば。また飯豊町とは、協力していく必要がある。ともにブランド牛を抱えるエリアとして、庄内町のような事例から学びながら、次に向けて進めていただきたい。委員の皆さんからも意見をいただければと思う。

#### 【4 その他】

委員 地球温暖化対策実行計画【事務事業編】について、意見を述べる機会や検討する機会が少ないように感じる。

計画の項目について、いつまでに誰が何を行う、どのように行う、というような詳細が見えてこず、まだ計画になっていないと思う。

改定について、議論の場を増やせば中身の濃い議論ができると思う。

単にモノを買って終わりではなく、市役所の本来業務の改善などの省エネの部分も入れて、時間をかけて検討する必要もあると思う。

事務局 今回は、変更部分をピックアップしての説明としており、事務事業編の改正案は配付のみ。変更箇所は赤字としているが、修正すべき点や意見等があれば、後ほど委員の皆さんからいただきたい。

審議会の回数については、事務局内で検討したい。

会長 委員の皆さんももっと意見はあると思う。色んな立場から集まっていたいている。市役所としても全体会議の設定は容易ではないと思うため、委員の皆さんへのお願いとして、意見等があれば、文書や資料添付して照会いただき、必要に応じて個別ヒアリングなどをしてもらいたい。

事務局 (事務局より、環境イベントについての紹介)